



水田台帳を利用した地域機関の取組みについて紹介します。

(1／2)

今回紹介する団体：水土里ネットふくい、
地域機関（2協議会、市、農業委員会）

取組概要

内容：水田台帳を、水土里情報利活用促進事業で整備した農地筆・区画と結合して地図化。農業再生協議会、水稻防除協議会、市、農業委員会が同じ地図情報を利用して、それぞれが必要とする主題図を出力し、業務に活用。

経緯：①各機関は水田台帳の情報を反映した地図の作成を、その都度手作業により行っていたため、多大な労力と時間を要していた。

②水土里情報利活用促進事業により農地筆・区画、航空写真が整備されたことから、担い手育成総合支援協議会（現在：農業再生協議会）に対し水田台帳の地図化を提案。突合を実施。

③地図化された水田台帳を利用して、各機関は以下の主題図を作成。

1. 農業再生協議会は「水田転作の確認図」※1
2. 水稻防除協議会は「水稻防除の実施位置図」※2
3. 市は「人・農地プランの農地利用図」※1
4. 農業委員会は「農地の利用状況調査位置図」

※1. 図面作成を土連が受託。※2. 業務支援プログラムを土連が作成。

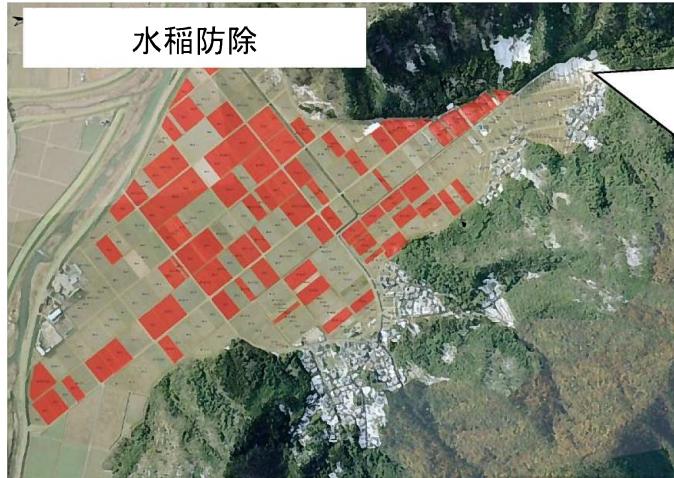
The screenshot displays a software application window divided into several panes:

- Top Left:** "水稻防除出力支援メニュー" (Rice Pest Control Output Support Menu) with options like "組合書を取り込みます。" and "明細書の変更を複数します。".
- Middle Left:** "選択面積集計リスト" (Selected Area Summary List) showing "選択1" and "選択2" with a total area of "59.481". Below it is a table titled "水田筆選択 (組合書形式)" (Rice Field Pen Selection (Group Book Format)) listing 8 entries with columns for "耕種番号" (Cultivation Number), "地名" (Name), "面積" (Area), and "耕種区分" (Cultivation Category).
- Bottom Left:** A small map showing the location of the survey area.
- Center:** A large map view showing agricultural fields color-coded by cultivation categories. A green rectangular area is highlighted on the map.
- Right Side:** A vertical stack of windows and toolbars, including "属性" (Attributes), "属性検索" (Attribute Search), "属性登録" (Attribute Registration), and "属性削除" (Attribute Deletion). The bottom-most window shows a detailed list of data entries.
- Bottom Center:** A toolbar with various icons for file operations like "新規" (New), "開く" (Open), "保存" (Save), and "退出" (Exit).

A large white arrow points from the "選択面積集計リスト" pane towards the map, indicating the process of "結合" (Integration).

期待される効果

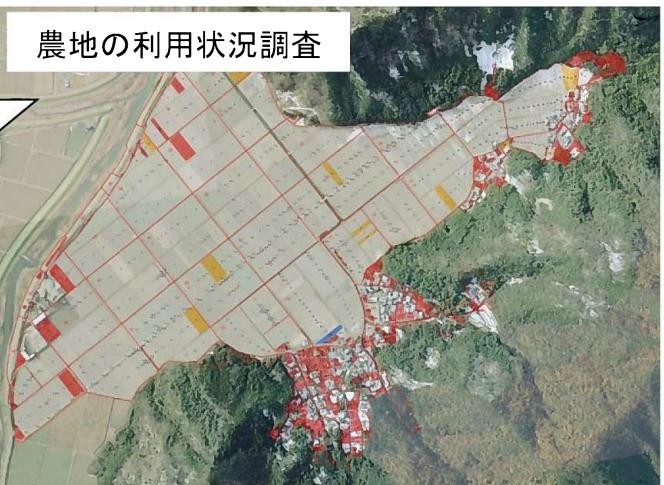
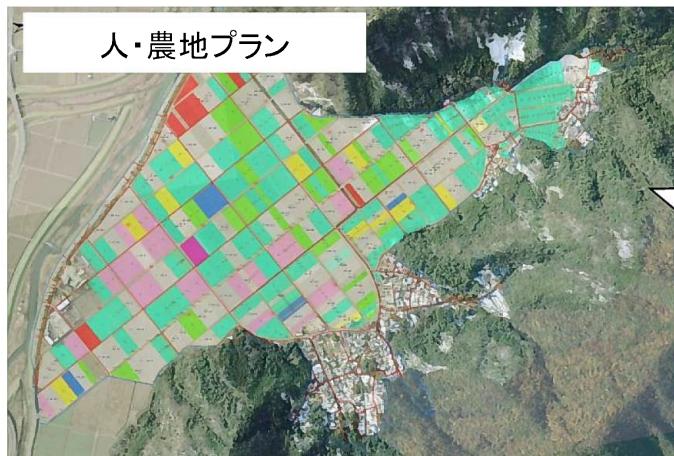
- ・地図作成にかかる労力、時間が大幅に低減される。
- ・地図情報の共有により、整備の重複投資を回避。



申し込みの受付処理(市)は筆の選択のみとし、他の入力項目(氏名、所在、面積、品種等)を省くことで、処理の迅速化と入力ミスを防ぐことが可能。

防除の実施(JA)においては、全体の把握を画面上で確認。ブロック割、農薬量のシミュレーションが容易となり、作業の効率化が図られる。

他の機関が行う現地確認等において、既に確認されている農地を調査対象から除外することにより、効率的な調査が可能となる。



地図上で所在と耕作者の把握が容易に行えることから、規模拡大等の検討をスムーズに行うことが可能。

また、データの蓄積を行うことにより、集積状況の把握も可能。

今後の活用予定

JJAが保有する情報(食味値等)との関連付けを行い、営農管理に活用。

■お問い合わせ先

福井県土地改良事業団体連合会 事業部土地改良課

0776-23-7775(直通)

農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室(横田、溝添) 03-6744-2212(直通)